

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みんなのそら にじ				2026年2月15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		基準は満たしているが、もう少し広いスペースがあつてもいいと思われる意見もある。	限りあるスペースの有効活用
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準は満たしている。資格保有者の人材確保が大変。給付金などの向上など政治的にもはら気かけが必要。	議員などとの連携による制度の改善に向けた取り組み。人材確保のための取り組みの強化。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		児童の特性に合わせ適宜工夫している。	児童の特性を理解し、適宜対応する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃、整理整頓に心がけている。収納などのスペースがあるとよい。	清掃、整理整頓に努めていく。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別スペースなどを工夫している。	パーテーションなどを省の仕方の工夫と改善を行う。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		経営指針書を毎年作成更新し、ビジョン、方針、方策、年間計画などを共有している。月に一度振り返り、確認をしている。	降りあえりと作成を継続していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意見などを確認把握し、改善に努めている。	短期中期長期などに分け、課題可決に向け取り組んでいく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		2か月に一度管理者による面談。年2回代表面談を行っている。また普段からコミュニケーションを取りやすい関係性に配慮している。	話しやすい雰囲気の向上に努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		外部顧問または大学の准教授を招き、企業所の様子などを見学してもらい、改善につなげている。	必要に応じて実施していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内定者研修、新入社員研修、スタッフ研修、学習障害研修、ケース検討会、メンタルヘルス研修、アンガーマネジメント研修、虐待防止研修等を行っている。	必要なものを研修に取り入れていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		児童の様子や状態に合わせたプログラム作成を行っている。鶴岡市の放課後等デイサービスガイドブックなどにプログラム内容を掲載している。	ガイドブックなどへの掲載を継続していく。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者面談、個別支援計画、毎月の振り返り、日々の振り返りなどを生かして計画作成を行っている。	継続し質の向上に努める。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		スタッフ間での話し合いや共有、全体への発表を行っている。	継続し質の向上に努める。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援会議などを実施している。	継続し質の向上に努める。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		行政からフォーマルなアセスメントの書式などの指定がないため、わからない。アセスメントは行っている。	継続し質の向上に努める。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画に反映している。	継続し質の向上に努める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームで行い、振り返りを行い、検証している。	継続し質の向上に努める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		様々な体験や経験ができるように配慮している。変化が必要ないものは固定化しているものもある。そのうえ質の向上を目指している。	継続し質の向上に努める。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援計画に反映している。	継続し質の向上に努める。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日のスタッフ全員で打ち合わせを行い、活動内容などの確認を行っている。	継続し質の向上に努める。

	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		日々行っている。	継続し質の向上に努める。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々行っている。	継続し質の向上に努める。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		適宜振り返りを行っている。必要に応じて修正を行っている。	制度に定められたとおりに行う。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		様々な視点を取り入れている。	ガイドラインへの提案を行っていく。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己決定が原則。	非認知能力を高める。
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		そのようにしている。	子供だけでなく、事業所である程度責任のある者の参加を行っている。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		こころの医療センターの意思を顧問医師として、定期的にケース検討会を行っている。	質の向上、児童の特性の理解に努める。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		適宜行っている。	連携の取りやすい関係づくりの向上に努める。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		適宜行っている。	適宜行う。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		適宜行っている。	適宜行う。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターが鶴岡市がない。ぜひ、連携したい。	児童発達支援センターの設立を祈る。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の子供たちと交流するプログラムを実施している。	継続していく。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		招集などがあれば参加している。	今のところ招集はない。当事業所が自立支援協議会を立ち上げる予定や必要性も今のところ感じていない。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳、SMS、保護者会、お迎え時などコミュニケーションを大切にしている。	話しやすい県警性の向上に努める。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特レーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		講演会などを実施している。	保護者の気持ちへ寄り添うことに主眼を置く。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にお伝えしている。不明な点については、適宜対応している。	適宜対応する。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談時などに行っている。	普段から話しやすい関係性の向上に努める。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		面談などで同意を得ている。	継続していく。
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		はい。助言は相手がひいされたとどちらの場合もあるため、慎重に行っている。	適宜慎重に行う。
保護者への説明等	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者参加や家族参加のプログラムを行っている。	継続していく。
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付マニュアルなどにより対応している。	何でも話せる雰囲気づくりに努める。
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的に発信している。	継続していく。
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		配慮している。	個人情報が漏れないように努める。
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		配慮している。	個々の状況や特性の理解の向上に努める。

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	<input type="radio"/>		絵の展示会などを実施している。	交流の場を継続し設けていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>		一部保護者に公表していないマニュアルがある。公表の必要性があるのかなど検討している。	ホームページなどを用いて周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>		避難訓練を実施している。	継続し非常に備える。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>		適宜行っている。	保護者や関係機関などからの聞き取り情報収取を継続する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>		現在対象者がいない	適宜対応する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>		適宜行っている。	安心安全な環境整備や心が目の向上に努める。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>		周知を行っていない。	周知する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>		日々の打ち合わせなどで防止策などを行っている。	事故を未然に防げるようする。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>		虐待防止研修、ケース検討会、メンタルヘルス研修などを行っている。さらに効果的な対応を検討している。	虐待が起らないように意識を高めていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画などに適宜記載している。	スタッフ保護者相互の理解を深めてく。